令和元年度第１回北斗市総合教育会議(概要)
日時：令和元年度 12 月 18 日(水)　10：00～
会場：北斗市役所３階　第４委員会室

●出席者

○北斗市総合教育会議委員		○事務局・説明委員	
北斗市長	池 田　達 雄	副　　市　　長	工 藤　実
教 育 長	永 田　裕	総　務　部　長	出 口　弘 幸
教育委員	伊 藤　哲 郎	教　育　次　長	梅 田　一 生
教育委員	村 上　久美子	学 校 教 育 課 長	小 野　義 則
教育委員	吉 田　秀 美	社 会 教 育 課 長	大井川　かおり
教育委員	伊 藤　恵 子	学校給食共同調理場所長	畑 山　弘 司
教育委員	長 内　克 磨		

●資料

・資料１　英語教育の推進について
・資料２　ＩＣＴ教育の推進について

１　開会

２　市長あいさつ

○ 池田市長より開会のあいさつ

おはようございます。令和元年度第１回北斗市総合教育会議の開催にあたり、大変お忙しい中ご出席を賜りまして、お礼を申し上げたいと思います。この北斗市総合教育会議は、首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題と時代に即した教育行政の推進を図ることを目的としたものです。

ご承知のとおり昨年度、平成３０年から令和３年度までの４年間の北斗市教育大綱を策定させていただきました。基本目標は、心豊かで、たくましく未来をいきる資質・能力を育む教育の推進としており、６つの基本方針の下、誰１人取り残されない社会を目指すというＳＤＧｓの理念に基づき、児童生徒の健全育成を進めてまいりたいと思います。

昨今の子どもを取り巻く状況は依然としていじめ、不登校などの問題がありますし、近年はスマホ、中でも LINE 等をはじめとする SNS 上での無責任な書き込みなどが事件や事故に繋がっているというようなことが毎日のように伝えられているような状況の中で、子どもたちをとりまく環境は依然として厳しい状況だと思っております。そのような状況の中においても、北斗市の子どもたちは学業はもとより、スポーツ・文化・芸術活動において活躍しているということは大変喜ばしいことだと思っております。これもひとえ

に子どもたちの頑張りが一番なのですが、日頃から指導してくださっている先生方、学校、家庭、地域そういった方々が一丸となって支えていることが一番なのかなと思っております。

本日は北斗市の英語教育、そして ICT 教育について説明を申し上げまして、その上で皆様方からのご意見をいただけたらと思っております。

今後も、北斗市が一丸となって子どもたちの環境を良くしていきたいと思いますし、また、教育のさらなる充実に向けて一層努力してまいりますので、皆様方からのご指導をよろしくお願い申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

3　出席者の紹介

○委員、事務局説明員紹介。

4　協議事項

○配付資料について説明。

(1)英語教育の推進について

○事務局より、資料1に従い、説明。

発言者	発言内容
伊藤(哲)委員	普段勉強している英語の力を発揮できるような授業、取り組みがあっても良いと思う。駅に来ている外国人と話して、自分の英語力がどの程度通用するのか試すといったものがあっても良いと思う。
教育長	従来の英語は受験のための勉強ということで楽しくない英語だったと思うが、茂辺地小中学校においては観光地に行って外国人に話しかけたり、遺愛高校と連携しながら外国人観光客を案内したりと、実践してきた例もある。茂辺地小中学校以外でも進めていく必要があると考えている。
市長	頭で覚える英語と、実際に聞く、話すという英語は違うと思う。ALT を増やした理由もそこにある。
教育長	学力テストの結果を見ると、茂辺地小中学校の結果が他の学校よりも良いという結果が出た。それを踏まえると、興味を持たせることが子どもたちにとって英語の力になるということが証明されたと思っている。 今後、そのような方向で進めていき、これから中学校の英語の授業ではオールイングリッシュで日本語を話さずに英語だけで授業を進めるという方向に進んでいるため、小学校のうちに英語を聞き取る力を養うことが重要になってくると思っている。

伊藤(恵)委員	中学校の ALT の先生による授業をもう少し増やしていただきたいと思う。授業も楽しいと思うし、コミュニケーションをとることで、英語への興味も出てくると思う。
教育長	ALT を可能な限り増やして来たが、財政的な問題もあることは承知いただきたい。ALT を配置できない所でも、スカイプ(※)を活用し、画面越しに ALT による授業を行うということも考えている。
長内委員	コミュニケーションのツールとしての英語とは別に、受験のための英語を学ばなければならないと思いますが、それはまったくの別物で、受験のための英語も重要だと思いますが、まずは小学校のうちに楽しんで英語を学ぶ環境を作ってあげるということが重要ではないかと思う。 少し話は変わりますが、函館で英検を受験する機会は年２回３回だけだが、札幌だともっと多いと聞いた。受験者の数の問題なのかどうかわからないが、もし本当に回数が少ないとしたら、それが英検３級取得率の低さに関係しているのではないかなと思う。
教育長	茂辺地小中学校は英検受験率ほぼ１００％である。先生の指導もあるが、子どもたちも受けたい、英語が楽しいと感じている部分もあると思う。楽しませることが結果的に英語の力が伸びるということに繋がっていくと思う。

※スカイプ・・・マイクロソフトが提供するインターネット電話サービス。

(２)ＩＣＴ教育の推進について

○事務局より、資料２に従い、説明。

吉田委員	ＯＥＣＤ(経済協力開発機構)の学力テストがありましたが、日本の読解力がかなり落ち込んでおり、今まで１０位以内だったものがかなりの落ち込み具合となっていましたが(８位→１５位)、回答方法がタブレットを使ったものだったとのことから、日頃からタブレットを使用し、使用方法を覚えることも重要になってきていると感じた。
学校教育課長	タブレット活用についてですが、小中学校に対して、タブレットを活用した授業を行っていますかというアンケート調査を行ったところ、北斗市の学校の場合は全国よりも上回っている状況であった。ただし、もっと活用したいという生徒の声もあるので、生徒の意欲を大事にした環境づくりをしていきたいと思う。
村上委員	委員の皆さんと学校の授業を見に行った際の印象としては、教室内が上手にまとまっているなという印象でした。すごく楽しそうにタブレットを活用しながら授業を行っていると感じた。
市長	タブレット使用に当たっての通信環境は学校による格差はないのか。

学校教育課長	基本的に格差はない。
吉田委員	無線だと回線が混みあって繋がりづらいという部分はどうしてもあると思う。
学校教育課長	不具合があった際には速やかに業者に対応してもらえるような環境は整っている。
市長	ICT 教育について、一つ心配していることがあり、スマホ等で事件も起きていると思うが、タブレットの授業を行っていると、親は与えたくないが、子供の勉強のために必要なら与えたほうが良いのかなと考えるのではないかと心配している部分がある。
教育長	タブレットを導入する際にはそのようなモラル的な部分を心配していた。正しい使用方法を教えていくことも重要だと考えている。

(3)全体を通して(その他)

吉田委員	私は北斗高等支援学校の委員をしているのですが、自閉症等の生徒が卒業し、就職した後、職場で困っても相談する相手がいないという問題がある。その結果離職してしまうというケースが多いとのことで、学校では卒業後 2 年間相談には乗るようですが、2 年経過するとなかなか相談できないようなので、相談窓口のようなものが必要でないかと考えている。
市長	支援学校だけではなく、他の学校も該当する話だと思うので、全体的に考えていかなくてはならない問題だと認識している。

○閉会にあたり市長あいさつ

最後に、SDG s の話をしたいと思います。17 のゴールと 169 のターゲットがあり、その中にそれぞれ指標があります。中でも基本的な考えとして、教育を受けられない、食事を与えられない、そういった方々をなくしていこうということで、2015 年の国連サミットで採決されたものです。SDG s の前身に MDG s というものがありましたが、これは発展途上国だけの話でしたが、SDG s は先進国もきちんと対応していかなくてはならないという考え方でありまして、その基本が教育です。そのような、教育が基本となるという思いで街づくりを進めていますし、だからこそ様々な取組を行っているところです。教育環境づくりにあたっては、引き続き委員の皆様方から意見を頂戴しながら進めていきたいと思います。

本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございました。